

2019年8月23日

損害保険ジャパン日本興亜株式会社

## 愛知県国際展示場(中部国際空港島)周辺での 自動運転の社会実装を見据えた実証実験への参画

損害保険ジャパン日本興亜株式会社(取締役社長:西澤 敬二、以下「損保ジャパン日本興亜」)は、2019年8月30日の愛知県国際展示場(中部国際空港島)開業を機に、従来からの遠隔型自動運転<sup>※1</sup>等の技術に加え、様々な車両を用いて、周辺の道路環境をリアルタイムに表示することを可能とするセルラーV2X<sup>※2</sup>と呼ばれる通信技術等を活用し、「空港周辺における最先端技術を用いた移動」を実証テーマとして展示場周辺において実施される実証実験に参画します。

本事業実施主体である、株式会社NTTドコモ(代表取締役社長:吉澤 和弘、以下「NTTドコモ」)をはじめ、アイサンテクノロジー株式会社(代表取締役社長:加藤 淳、以下「アイサンテクノロジー」)、岡谷鋼機株式会社(取締役社長:岡谷 篤一、以下「岡谷鋼機」)、株式会社ティアフォー(代表取締役社長:武田 一哉、以下「ティアフォー」)、名古屋鉄道株式会社(代表取締役社長:安藤 隆司、以下「名古屋鉄道」)、国立大学法人名古屋大学(総長:松尾 清一、以下「名古屋大学」)、日本信号株式会社(代表取締役社長:塚本 英彦、以下「日本信号」)、と共同で本事業に参画します。

### ※1 遠隔型自動運転

遠隔運転手が、情報通信技術を使用し車両を監視・制御する技術

1人の運転手が1台を監視・操作するものを1:1

### ※2 セルラーV2X

携帯電話ネットワーク技術を活用した車とあらゆるもの(Vehicle-to-Everything)との通信技術

## 1. 実証日程

2019年8月30日(金)、及び9月2日(月)から4日(水)まで

## 2. 事業実施体制

NTTドコモを主体とし、アイサンテクノロジー、岡谷鋼機、損害保険ジャパン日本興亜、ティアフォー、名古屋鉄道、名古屋大学、日本信号の7社・1大学で実施。

協力:常滑市、中部国際空港(株)、愛知国際会議展示場(株)、東横INN中部国際空港


## 3. 当社の役割

自動運転車の「事故に備えた保険」の提供に加え、自動運転走行の安全を確保するための「走行前のリスクアセスメント」、無人車両に対する不安を取り除くための「走行中の見守り(監視)」により、安心と安全面でのサポートを行っていく予定です。

#### 4. ルート等詳細

展示場周辺において、自動運転の社会実装を仮想定したルートを設定。

#### 5. 車両概要

	レクサス RX	Mi lee<マイリー>
車両名		
仕様	トヨタ自動車（株）の一般乗用車をベースに遠隔型自動運転等が可能となるよう構築	<ul style="list-style-type: none"><li>・ヤマハ発動機（株）のゴルフカートをベースに（株）ティアフォー等が製作</li><li>・最大時速 19 km / 最大乗車人員 4 名</li></ul>
特徴	ハイクラスなベース車両を活用し、快適性の高い車内空間や走行環境を実現	<ul style="list-style-type: none"><li>・客席のみで、運転席や操舵装置はない</li><li>・ラストマイルの移動ニーズに対応するコンセプトビークル</li></ul>

以上